

労働安全保安衛生

価値創造へ向けて

サプライチェーンを含めた労働災害の撲滅と安全な職場環境を目指し、安全保安衛生活動をグループで組織的に展開しています。

当社は安全保安衛生方針を次の通り定めています。本方針の精神に則り、本社と事業所では年度ごとに職場の実態に即した安全保安衛生管理方針を作成しています。

当社は従業員の安全と保安および健康の確保が企業の存立の基盤をなすものと認識し、労働安全衛生法および鉱山保安法の精神に基づき労働災害および職業性疾病的の発生を防止するために適切な経営資源を投入し、安全保安衛生方針を効果的に実施しています。

また、これをもとに当社グループの安全保安衛生管理についての基本的な事項を「安全保安衛生管理規程」に定め、安全保安衛生の推進に努めています。

運用体制

取締役会直属のサステナビリティ経営委員会の傘下である「全社安全保安衛生委員会」を設置し、安全を所管する設備部担当役員が委員長となっています。同委員会では各事業所の推進活動を統括しており、グループ会社の安全に対してもデータの収集ならびに部門間を横断した指導を行っています。

また、本社各所管部における各事業所およびグループ会社では、労使双方で構成する「安全保安衛生に関する委員会および協力会」を組織し、事業所別に活動を推進しています。

国内のセメント工場・鉱業所の安全保安衛生管理はOSHMS*により展開されています。

※ OSHMS (労働安全衛生マネジメントシステム)：1999年に厚生労働省が示した指針で、連続的かつ継続的な安全衛生管理を自主的に行うことにより、事業所の労働災害の潜在的な危険性の低減、および快適職場を促進させる仕組み

実現に向けてのロードマップ

全社安全保安衛生委員会では、前述の規定ならびにOSHMSに則り毎年四半期ごとにレビューを行い全社でPDCAを回しています。PDCAを回すことで全社の状況にあった目標を毎年定めています。

その中でも、普遍的かつ永続的な目標を掲げ、重点的に安全保安衛生推進活動に取り組んでいます。

安全保安衛生方針

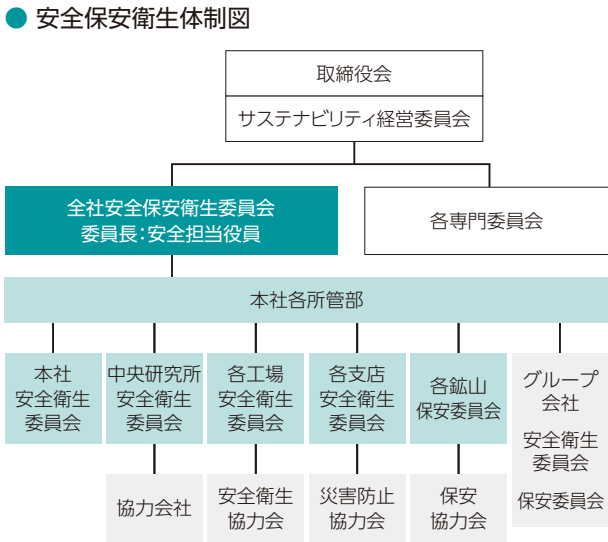
① 労働災害ゼロを目指し、労使協議及び参加の下に安全保安衛生活動を推進します。

② 安全保安衛生関係諸法令を遵守するとともに、当社で定めた安全保安衛生管理規程と事業所及びグループ関係会社で定めた安全保安衛生規定類に基づき、従業員と協力会社の安全保安衛生を確保します。

③ 労働安全衛生マネジメントシステムの実施及び運用を積極的に推進し、作業と設備の本質安全化並びに教育訓練や啓蒙活動を継続的に実施するとともに労働安全衛生マネジメントシステムの継続的改善で安全保安衛生水準の向上に努めます。

④ 全社と事業所及びグループ関係会社の安全保安衛生委員会を通して技術の進歩及び安全保安衛生の新しい知識情報に適応し、職場環境と作業方法を継続的に改善します。

⑤ 全社と事業所及びグループ関係会社の安全保安衛生委員会のリーダーシップで労働災害撲滅活動を進め、太平洋グループ全体の安全保安衛生の確保を推進します。



また2023年度は、2022年度レビューより目標および活動内容を定め取り組みました。

【目標】

グループ全体で死亡災害ゼロ(CSR目標2025)

2023年度実績

2026年度計画

ありたい姿(2030)

活動内容

死亡災害0件かつ災害件数80件以下

安全最終目標
ゼロ災害(含む協力会社)

① ルール違反災害の撲滅

② 熱中症災害の撲滅

③ 類似・再発災害の防止

④ 安全保安衛生関連法令の遵守

⑤ 新型コロナウイルス感染症予防
(従業員の感染防止・感染拡散防止)

① ルール違反の撲滅

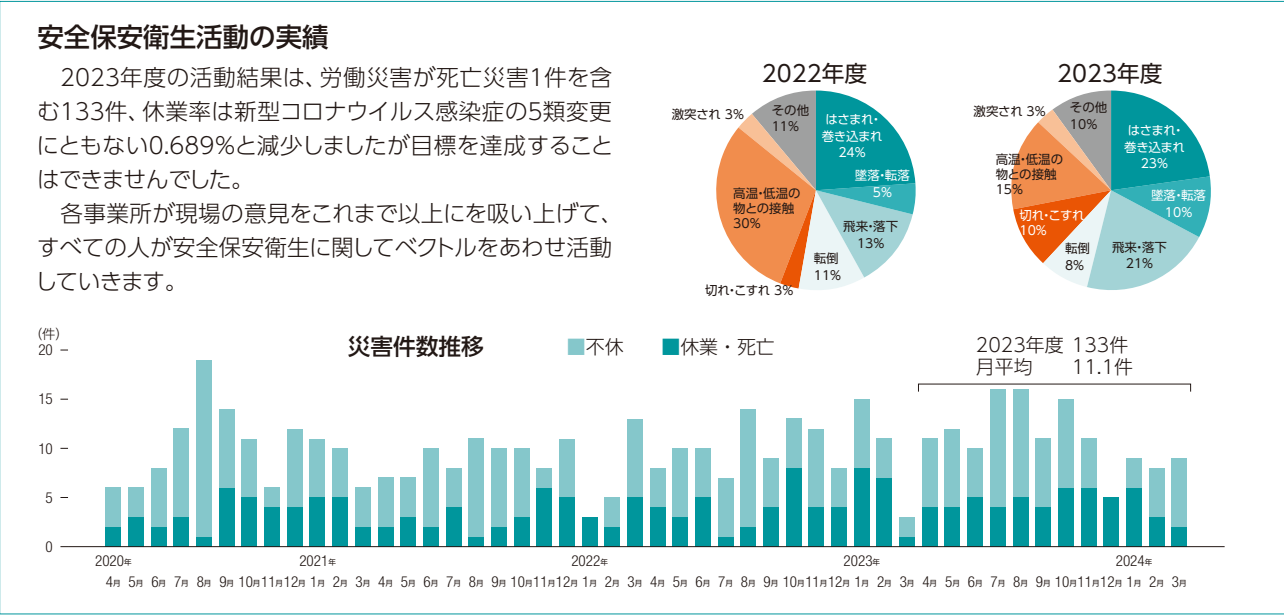
② 災害発生リスク低減活動の推進

③ 熱中症災害の撲滅

④ CSR安全目標達成に向けたグループ会社の安全管理レベル向上支援とチェック強化

● マテリアリティのKPI・目標と実績

マテリアリティの目標・KPI／その他目標・目安	2021年度	2022年度	2023年度
災害の発生防止 死亡災害ゼロ	2件	2件	1件
全社安全保安衛生委員会目標			
① グループ全体で死亡災害ゼロ	2件	2件	1件
② グループ全体で休業災害を30件以下	36件	49件	53件
③ グループ全体の労働災害総件数を80件以下	103件	120件	133件
(1)ルール違反災害	24件	31件	31件
(2)熱中症災害	6件	7件	11件
(3)類似・再発災害	67件	93件	97件
④ 当社在籍従業員の休業率 0.5%台	0.604%	0.935%	0.689%



ISO45001への取り組み

2018年3月に国際標準化機構によるOSHMSのISO45001規格が制定されました。当社は2007年より厚生労働省が示した指針に基づきOSHMSを運用していますが、国際的な企業として品質(ISO9001)、環境(ISO14001)に加え、安全衛生のISO45001規格の認証を2023年4月に本社設備部(中央機能)、上磯工場ならびに大分工場で取得しました。

2024年3月には大分工場にて認証継続のサーベイランスを受審し、指摘事項なく維持継続が決定しました。引き続き当システムを活用した継続的な改善を推進していきます。

COPY

COPY

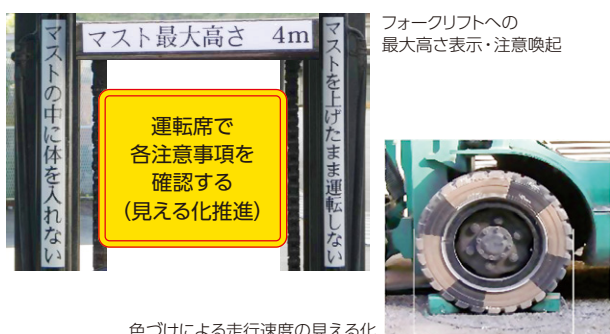
労働安全保安衛生

災害防止に向けた取り組み事例

1

再発防止対策(死亡災害を受けて)

2023年8月にセメント工場で、協力会社の作業員がフォークリフトのマストに挟まれて亡くなる災害が発生しました。直接的には走行中にマストを上げ操作したことで、上部の設備に接触しマスト本体が破損したことが原因ですが、フォークリフトの運用や管理・マストの高さ表示の見える化が不十分であったことも間接的な要因です。全社安全保安衛生委員会はすべての事業所に前述の対策を含む「フォークリフト作業の安全化のための施策」を通知し、災害対策の展開を図りました。

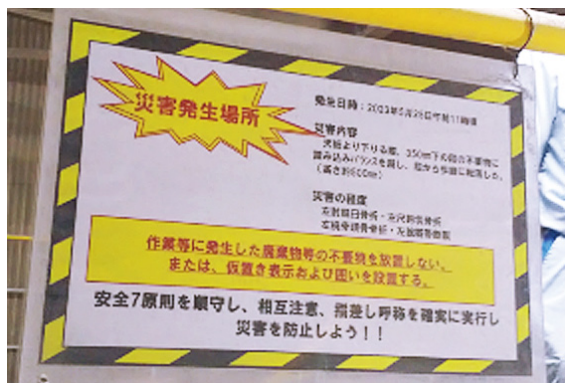


色づけによる走行速度の見える化

2

再発防止対策(災害教訓の伝承活動)

災害現場に災害情報を掲示することで、災害を風化させることなく教訓として伝承する活動を推進しています。「見える化」活動はルール遵守の注意喚起と相互注意を促し、安全に対する意識向上につながっています。



3

グループ会社への安全活動支援

全社安全保安衛生委員会は、グループ会社の安全活動支援を行っています。2018年度から開始し、グループの国内と海外の事業所に対し安全調査を実施しています。

● グループ会社への安全調査の実施回数

	2021年度	2022年度	2023年度
国内事業所	1	7	14
海外事業所	(活動制限)	1	1

4

設備の本質安全化

各工場では現場の意見を反映して設備の本質安全化を図っています。



挟まれ(動いている機械に手をだす)災害の防止



5

安全体感教育

一人ひとりの安全に対する感性を高めるため、身近な作業における危険を体験させる安全体感教育を推進しています。2018年度から各セメント工場に危険体感設備の導入や、現場設備を利用し、若手従業員など経験の浅い人にも効果的に教育ができる体制を整えています。また、VR教育を併用するなど工夫を凝らし安全に対する感性の向上に努めています。

導入した危険体感設備・器具

巻き込まれ(ローラ・チェーン・Vベルト・ベルトコンベア・ロータリーフィーダー・卓上ボール盤・エアシリンダー) / 安全靴、落下物衝撃体感 / 墜落防止器具(安全帯)でのぶら下がり / 感電・人体電気抵抗体感 / 指差呼称安全体感 / 重量物玉掛け / ディスクグラインダーのキックバック / その他

VR教育との併用

高所からの落下 / 感電 / ベルトコンベアの巻き込まれ / 重機との接触